

茶草場は生き物の宝庫！昔から継続する独自の農法は2013年世界農業遺産「静岡の茶草場農法」として認定されました

「茶草場農法」って何？

茶草場とは、茶園に有機物として投入するササやススキなどの草を刈り取るための半自然草地のことです。

環境と生物多様性を守る

茶畑周辺のススキやササが生育する茶草場(半自然草地)



循環型農業



茶草を刈る



茶草を干す



その結果、良質なお茶が育っています



雑草・土壌流出防止
土壌保温・堆肥になる



茶園の畝間に敷く



細かく切って
茶園に運ぶ

絶滅危惧植物



キンラン



フジタイゲキ

絶滅危惧種の植物は10種類記録されています(そのうち現在東山の茶草場には300種の草地植物が共存しています。)

地形が急傾斜の東山地域の茶畑は、砂礫の混じった土質が多く、水はけの良いことは茶樹に向いていますが、表面の土が乾燥し肥料分や水分が流れ易く茶栽培には不向きな点もありました。東山の先人達は150年前から砂礫の土に有機成分の茶草を敷き込み、水分や肥料を長く保持する、独自の土作りを行ってきました。

草を刈ってそれを外に運び出すという作業は、お茶作りの為に行っているのですが、そこに生える植物にはとても役立つています。一年に一度大きな草を刈ることにより背丈の小さな植物に日光が当たり守られてきたのです。そして

夏の茶畑に灌水

ひと昔より高温化している夏の暑さ、晴天続きになると茶畑の水やりが必要になってきます。東山地区には茶園の灌水設備が大変充実していて、ほとんどの茶園にはスプリンクラーが配管されています。夕方から夜にかけて6時間くらい出し続けます。東山にはこんなコンクリート貯水槽が大小12基ほどあり、この槽の貯水量は3千トン、数年に一度内部の清掃を行います。これを見ると大変大きいことが分かります。水源は遙か遠くの大井川から取水しています。

県茶品評会 今年も上位入賞

県内の茶農家が茶の出来栄を競う静岡県茶品評会の結果が8月に発表されました。昨年、当組合は深蒸し茶の部において1等1席を受賞しましたが、今年は惜しくも1等3席と4席になりました。今まで取り組んできた栽培方法、製造技術を次年度以降も継続できるように努力して参ります。

ネット限定

LINE友だち登録でお得に購入！

9月と10月は **ふうらん 100g 3袋セット**

商品カテゴリ⇒お得なセットから入る

通常¥1950のところお得なセットで¥1850 さらにクーポン利用で1セットにつき¥100お得！

